

# 『災害から私達を守ってくれる税金』

足立区立蒲原中学校 三年三組 喜谷 真央

私は公共事業に使われる税金について興味をもち、調べました。きっかけは、近年増加している自然災害への対策や復興への取り組みが多く行われていることをテレビのニュースで見たことです。詳しく調べたところ、これらは「災害復旧等事業費」に含まれているそうです。東日本大震災が起こった際には、「復興特別会計」として総額七千三百一億円の予算が組まれ、除染、汚染廃棄物の処理やまちづくりの復興等に使われたそうです。

私はここで復旧と復興の違いについて気になりました。調べてみたところ、復旧とは前の状態に戻すこと。つまり壊れてしまった物を直し、以前のような光景を取り戻すことだと私は思います。そして復興とは一度衰えたものが再び盛んになること、また盛んにすること。つまり観光をもう一度盛んにし、魅力を沢山の人の伝えることだと私は思います。現在、ほとんどの地域で復旧、復興が行われています。私の母方の実家が宮城にあり、祖父母の話によると、東日本大震災の際、大きな被害を受け、とても大変だったそうです。しかし、被害を受けた以上に沢山の支援をしてもらってとても感謝していると話していました。今では以前と同じような生活ができています。私はこの話を聞いて、税金は様々な方面から私達の生活を支えてくれているんだと思いました。しかし現在、このような、「災害復旧事業費」は国の歳出におけ

る公共事業関係費の全体の二パーセントにも及んでいません。私は初め、この割合をもっと増やすべきだと思っていました。なぜなら、災害復旧は被害を受けた方々の傷ついた心や暗くなってしまう地域をもう一度明るくすることができると思ったからです。しかしよく考えてみると、起こってしまったことをもとに戻すこともとても大切だけど、それ以上に被害を最小限に抑えることのほうが大切なのではないかと思いました。実際、公共事業に使われる税金で最も割合が多いのは、「社会資本総合整備事業費」です。これはまちの整備や住宅支援のために使われるもので、新しく造るときにより災害に強いまちを作ることができます。その次に多いのが、「道路整備事業費」です。そして三番目に多いのが、「治山治水対策事業費」です。これは風水害を防ぐ工事のために使われる税金で、自然災害において減らせるものを減らしていくことができません。私はこれらの対策などで少しでも自然災害の被害が減るといいとおもいました。

今回私が調べたのは公共事業に使われる税金についてですが、税金は他の場面でも私達の生活を支え、そして守ってくれていることを知ることができました。今後の生活で、自分の街をもう一度よく見て今までとはまた違う見方をして生活していきたいです。